



<同志社人が母校を誇りに思える情報>

「同志社ファン・レポート」(通巻289号)

リエゾンオフィスについて

同志社大学理工学部 加藤将樹教授



7月上旬に『AERA 同志社大学』が出版された。そこで植木学長が次のように語っている。

「産学連携について」

植木 従来は教授個人の研究それぞれで企業などと連携するケースが多かったのですが、それを大学全体に広げていこうと取り組んでいます。さらに研究だけではなく、教育面でも双方向で協力したいと考えています。昨年、大和総研とデータサイエンス分野での協定を結びましたが、これはビジネスとデータサイエンスの両方の知識を持つ人材を育成することを目的としています。」

これらの取り組みに関わるのが「リエゾンオフィス」です。その意味を探っていきたい。

1. リエゾンオフィスの定義 (一般論)

産学連携キーワード辞典の解説には、次のように書かれている。

「リエゾンオフィス」とは企業ニーズと、大学の研究室、研究者のもつ研究テーマ、貴重な技術シーズのマッチングを行い、産学連携による共同研究、技術移転等を実現させるための支援機能をもつ組織のこと。大学では「リエゾンオフィス」を設置し、受託研究の問合せ、申し入れを受ける、など産学連携の窓口としている場合がある。民間企業が大学との共同研究を検討する場合、まず、こういった「リエゾンオフィス」に問い合わせるのも手段の一つとしてあげることができる。

2. 同志社大学の場合の定義

リエゾンオフィスは、「産業界、官庁（中央、地方）地域社会と連携、共同研究などで同志社大学の間において懸け橋の役割を果たす。」

更に詳しく言えば「リエゾンオフィスは、大学と企業、地域社会とを結ぶ "窓口" となり、本学の教職員が有する知的資源を公開し、研究成果をもとに広く社会と連携することを目的としています。全学的な組織として、学際的な産官学共同事業にも対応しながら、新しい産業やビジネスの創出をめざします。さらに本学の知的財産センターと連携し、本学の研究者が実施する優れた研究の中から特許化できる成果の発掘を行い、積極的な知的財産の創出および技術移転をはかります。

一方で、総合大学としての本学の機能をトータルコーディネートし、技術や研究に関するアドバイスをはじめ、経営コンサルティング、特許出願・申請・取得に関する法律相談などあらゆるサービスを提供できる体制を整えています。インターネット（ホームページ）による、情報発信にも積極的に取り組んでいます。

3. リエゾンオフィスの設置根拠は、「同志社大学産官学連携ポリシー」の5番目にある。

「5.本学の知的財産の公開及び社会や地域との連携推進拠点としてリエゾンオフィスを設け、教育・研究体制の強化並びに本学に対する社会的評価の向上に寄与する。」とある。

所在地は京田辺キャンパス同志社ローム記念館 2F 京田辺市多々羅都谷 1-3

4. Q&A に見る内容

Q. 同志社大学の教員に知り合いがおりませんが、相談にのってもらえるのでしょうか？

A: リエゾンオフィスにご相談ください。相談内容に適切に対応できる教員をご紹介します。

Q. 同志社大学リエゾンオフィスではどのような連携ができますか？

A: 同志社大学には様々な学部・研究科、研究所、研究センター等がございます。技術や、研究に関するアドバイスだけでなく、経営コンサルティング、特許などの法律相談など、あらゆるサービスを提供できる体制を整えております。

5. 「LIAISON」によれば

同志社大学リエゾンオフィスニューズレター「LIAISON」は、本学の産官学連携・地域連携活動、起業支援活動などの情報発信のため、年間3回、機関誌として発行している、その最新号の記事は次のとおりで、活動内容の一端が伺える。

【LIAISON OFFICE NEWS & TOPICS】

- ・「BioJapan 2019」に出展
- ・「けいはんな情報通信フェア 2019」に出展
- ・国際研究シンポジウム「Doshisha Week」をドイツにて開催

【研究者をたずねて】

「情報分析の世界から知的創造活動の未来を拓く。」

桂井 麻里衣 工学部 インテリジェント情報工学科 助教 「無生物の生物学的現象を化学の世界へ展開する。」

山本 大吾 工学部 化学システム創成工学科 准教授 「日本のスポーツ産業にも国際比較できる指標を。」

庄子 博人 スポーツ健康科学部 スポーツ健康科学科 准教授

.....

以上のように、「リエゾンオフィス」は黒子的存在で、社会に、母校に貢献しています。我々OBOGはこのことを知り、母校についての誇りを更に高めていただきたいと思います。

(編集・文責：同志社ファンを増やす会・多田直彦)